

琉球弧世界遺産フォーラム

vol.12

News Letter

2019・3月

世界遺産を地域でいかす取り組みが進んでいます

沖縄の世界文化遺産、「琉球王国のグスク及び関連遺産群」は、来年（2020年）、登録20周年の節目を迎えます。この世界遺産は、相互に関連する9つの歴史遺産で構成される一群の資産です。構成資産が所在する7市村では、この間、行政や地域社会またはそれらの協働体制により世界遺産の保存と利用が進められてきました。地域の団体や学校による取り組みが新聞やテレビで取り上げられることも少なくありません。

世界遺産条約を国際社会で活かす上で、世界遺産の保存と利用を地域社会が担う仕組みづくりが重要視され、2000年を過ぎた頃から世界遺産委員会の主要テーマとなっています。人類共通の宝といえども、末永く継承するには地域社会のふだんの生活を通して保存と利用のバランスが取られるのが一番の効果だというわけです。地域社会をやりくりする上で世界遺産に日常的役割を与え、持続可能な地域づくりのツールにすることをこの条約は求めているのです。

今号は、地域で世界遺産をいかす取り組みについて2題の紹介記事を掲載できました。

2020年に沖縄の文化遺産が登録20周年を迎えるに当たり、この節目に遺産群の恒久的な保全と活用について考える機会にしようと、沖縄県教育委員会と関係7市村で構成される「沖縄県世界文化遺産保存活用推進協議会」による、観光部局と連携して連年で実施される多彩なプログラムについて趣旨、内容、実施主体など交えた紹介記事を、沖縄県教育庁文化財課で世界遺産を担当されている山田義尚さんが寄稿くださいました。

また、今帰仁グスクを学ぶ会の事務局長、山内道美さんが地元小中高の生徒とのコラボレーションや、地域と若者たちによる遺産活用の取り組みについて寄稿くださいました。自身で考案された綿密かつ実践的なガイド養成テキストと相まって、地域団体の活動の意義や役割の大きさが伝わり、世界遺産の活用について多くの示唆が得られる事例紹介です。

さて、昨年5月のIUCNの登録延期勧告とそれを受けた推薦書の取り下げで、登録実現が遠退いたかに見えた奄美・琉球の世界自然遺産候補ですが、IUCNの評価根拠に対応する措置を講じ推薦書が改訂され、去った2月1日世界遺産委員会に再度提出されました。2020年の登録審議まで手続きを経ることになります。琉球弧世界遺産フォーラム代表による改訂版推薦書等で新たに講じられた措置についての解説も掲載しました。

人と自然の民俗誌の第2回として、西江重信さんは苦みのある野草を上手に食す、沖縄の苦みの食文化について、野菜に対し野の菜と名付けた野草を写真とともに紹介し、野の菜を使った氏オリジナルのメニューも提唱。なるほど、足元に生えている野草も野の菜となると立派な資源です。

（琉球弧世界遺産フォーラム News Letter 編集担当記）

もくじ

| | |
|--|------|
| 「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録20周年記念事業について | 山田義尚 |
| 世界遺産で青少年を育てる～地元の宝 再発見～ | 山内道美 |
| 再提出された奄美・琉球の世界自然遺産登録推薦書－IUCNの指摘にどう応えたのか－ | 花井正光 |
| 連載 人と自然の民俗誌 第2回 足元の資源が自然資本 | 西江重信 |

発行：琉球弧世界遺産フォーラム（琉球弧世界遺産学会）

ryusefo@gmail.com

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」 世界遺産登録 20 周年記念事業について

山田 義尚（沖縄県教育庁文化財課記念物班 世界遺産担当）

1. はじめに

「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が2000（平成12）年12月2日に世界遺産登録リストされました。日本国内における文化遺産としては9番目、自然遺産を含めると11番目の登録でありました。2020年には登録から20



今帰仁城跡

年目の節目を迎えることとなります。この間、県内外の多くの人々に周知され、児童生徒の歴史学習や県民の生涯学習などの生きた教材として活用されています。また、沖縄県内有数の観光資源の一つとして、国内外から訪れる来訪者を数多く集め、平成29年中には構成資産全体で約393万人が訪れ、沖縄観光の一翼を担っています。

沖縄戦により多大な被害をうけた世界遺産。戦後、地域の人々や市町村・県・国など関係者の努力により整備が進められ、現在では往時の姿を見せつつあります。私たち沖縄の「島んちゅの宝」が「世界の宝」として世界に認められた今、この遺産を今後も後世に継承していく努力が求められています。直近の課題としても、遺産を取り巻くバッファゾーンを含む資産周辺の開発による景観保全の問題や、来訪者の増加に伴う芝の裸地化や石畳の摩耗といった資産への負荷の増大など、さまざまな問題が浮上してきています。



勝連城跡

こうした中、沖縄県教育庁文化財課では、この関連遺産群について、後世にその資産価値を継承していくために、平成24年度にその保存と活用のあり方についての基本的な考え方・取り組み方についてまとめた「琉球王国のグスク及び関連遺産群」包括的保存管理計画を策定しました。そして、その理念や計画を具体的に実現するための体制として、同課において「沖縄県世界文化遺産保存活用推進協議会」を発足させました。この協議会において、保存と活用に関する様々な課題について検討したり情報交換などを行っています。



座喜味城跡

来訪者の増加と国際化の進展、少子高齢化、情報化社会への進展も進んでいくなかで、登録から20年目となる節目を契機に、遺産群の恒久的な保全と活用について考える機会にする必要があるのではと当協議会では平成29年度より検討を始めました。県内外に向けて遺産群の普遍的価値を今以上に周知・継承すること、観光資源としての認知度の向上と遺産に適した活用方法を図ることを目的に、周年記念事業を実施することにした次第です。

2. 実施日程

登録20周年の1年前にあたる2019年度から事業を開始し、2020年度にかけて実施します。2019年度は、各資産のプロモーションビデオやパンフレット作成、周年記念事業告知ポスターやスタンプラリーの画材募集など2020年度に使用する素材の作成や当該市村が実施する既存事業に周年事業を連携させ、気運を高める取組を行います。登

録 20 周年となる 2020 年には、前年に準備した事業を活用し、多くの記念事業（下記参照）を 2021 年 3 月まで開催する計画です。

3. 実施目的

20 周年記念事業の実施目的は以下の 4 つです。

(1) 遺産群の資産価値・観光資源としての認知度の向上を図る

登録記念式典、出土品巡回展、国内外でのプロモーション、スタンプラリー等の実施を通して県内外へアピールを行い、遺産群の価値のさらなる周知化を図るとともに、観光資源としての認知度の向上に繋げる。

(2) 遺産群の恒久的な保存と活用のあり方を探る

保存および活用に関する講演およびシンポジウムを開催し、現状と課題等についての討論を広く県内外の人々に聞いてもらい、保存と活用を考えるうえでの機会とする。

(3) 遺産群の周知・普及活動の推進

周年記念事業のキャッチフレーズやロゴマーク、ポスター等の募集、県内世界遺産をテーマとした写真コンテストや児童生徒を対象とした図画作品コンクールや世界遺産講座の実施等を通し、県内の幅広い世代において世界遺産に親しみを持ってもらう。同時に、世界遺産に対する理解を深めさせるとともに、資産伝承の担い手としての意識や関心を高める。

(4) 次代につながる記念事業の実施

登録 20 周年記念事業については、一過性のイベントではなく、現在、各資産が抱える課題の解決につながることにしたい。また、世界遺産所在地域住民だけでなく、世界遺産が所在しない地域の方々や県外、国外の多くの方々に沖縄県に所在する世界（文化）遺産の魅力と文化的な価値を伝え、関心と理解、愛着を深めていく事業とする。



中城城跡



首里城跡(正殿)



園比屋武御嶽石門

4. 主催と予算

「1. はじめに」の文中で示した、「沖縄県世界文化遺産保存活用推進協議会」に所属しているメンバーを中心とし、沖縄の観光・文化に大きく関わっている事業者を複数加えた「実行委員会」を主催者とした実施を計画しています。当委員会の発足は 2019 年 5 月を予定しています。

予算については、文化遺産総合活用推進事業（文化芸術振興費補助金）の世界遺産活性化事業の活用を考えています。また、県及び各市村などからの負担金、補助金、交付金などの活用も検討しています。

5. 内容

2017 年より、記念事業ワーキンググループを立ち上げ、2 つの系統に分けて検討を重ねてきました。

(A) 県教育庁・市村教育委員会主体事業として「遺産群の周知普及と資産価値の理解向上を図る事業」

(B) 県観光振興課・市村観光部局主体事業として「観光資源としての認知度の向上を図る事業」

まず、上記(A)(B)に分類し、(1)2019年度実施、(2)2020年度実施、(3)継続検討グループの3つにわけて実施計画を進めているところです。それぞれについて現状を紹介します。

(1) 2019年度実施

(ア) 県内世界遺産をテーマとした写真コンテストや児童生徒を対象とした図画作品コンクール

上記(A)に属し、普及啓発を目的とする。県教育庁が主担当。キャッチフレーズやロゴマーク、スタンプラリーの画材、告知ポスターデザインにも結びつける予定。

(イ) プロモーションビデオの作製

上記(B)に属し、プロモーションを目的とする。県観光振興課が主担当。各市村などから、世界遺産に関する新旧の映像を提供してもらい、作製計画を進めている。

(ウ) パンフレットの作製上

上記(B)に属し、プロモーションを目的とする。県観光振興課が主担当。全資産を網羅した多言語対応(英・韓・中国繁体・中国簡体)のパンフレット作製計画を進めている。

(エ) 市村が実施する事業・イベントの実施(2019年度から2年間実施)

上記(A)に属し、市村連携を目的とする。各市村が主担当。市村独自の新規事業・イベントを開催。または、既存イベントの周年事業を冠化することで気運を高める取組を計画している。

(オ) 資産群を舞台とした他の文化事業・イベントの連携(2019年度から2年間実施)

上記(A)に属し、市村連携を目的とする。世界遺産での実施を前提とし、例として、組踊など無形文化財関連イベントを誘致することが考えられる。

(カ) (ア)～(ウ)を利用した事業(準備でき次第、2020年度まで実施)

- ・ゆいレール、バス等への車両広告
- ・JALやANAなどで広告(機内誌や機内プロモーション映像での放送が考えられる)

(2) 2020年度実施

(ア) 世界遺産登録20周年記念式典・祝賀会

上記(A)に属する。登録日の2020年12月2日前後で計画。県教育庁と各市村が主担当。

(イ) 第7回世界遺産サミット

上記(B)に属する。県観光振興課が主担当。全国各地で平成26年から毎年1回開催され、今年度で5回目となる。世界遺産が所在する自治体の首長等が一堂に会し、世界遺産の保全や観光面での活用について話し合い、地域間の連携を深めるとともに、世界遺産の魅力を広く発信することを目的としている。2020年度本県誘致にむけて立候補し決定した。当年10月～11月ごろの開催を計画している。内容としては、例年、エクスカージョン、基調講演、分科会開催と発表、首長会議、サミット宣言などが行われており、これらを



玉陵



齋場御嶽

軸に本県でも計画を進めていくことにしている。

(ウ) 出土品巡回展

上記(A)に属し、普及啓発を目的とする。県教育庁と各市村が主担当。各資産の出土遺構等の写真(パネル)や出土品の展示を各市村持ち回りで行う。

(エ) 世界遺産スタンプラリー

上記(A)に属し、普及啓発を目的とする。県教育庁と各市村が主担当。各資産用のスタンプとスタンプ台紙(9資産一冊のパンフレット)を製作し、一定期間内に9資産を観覧し、台紙に押印した方に記念品を贈呈する。

(オ) 世界遺産ライトアップ事業

上記(A)に属し、普及啓発を目的とする。各市村などが担当する。世界遺産登録日(12月2日)を中心に、各資産連携による実施とし、マンスリーライトアップもしくはライトアップウィークとする。資産の特徴によっては、強制しないことも確認している(識名園など)

(カ) 県内小中高校生向け世界遺産学習副読本の作製と配布

上記(A)に属し、人材育成を目的とする。県教育庁が主担当。世界遺産登録時に作製された副読本の内容のリニューアルを行い、小中高特別支援学校などで世界遺産について学習するための教材として活用する。

(キ) 記念事業報告書の作製

上記(A)に属する。周年事業終了後に刊行する。

(ク) (ア)、(イ)に関連した事業(中に組み込むことを想定)

- ・世界遺産登録20周年記念シンポジウム・・・専門家による基調講演、パネルディスカッション等による世界遺産への理解と保存と活用のあり方、地域との関わりについて考える。また、世界自然遺産が登録に至った場合は、文化遺産と自然遺産の連携等についてもテーマの一つとする。
- ・「わったーしまの世界遺産」(講演会)・・・著名人(例：世界遺産検定取得者)による講演・日本国内並びに海外の世界遺産について学ぶことができる講演の実施。学術的な堅い内容にしないことを想定。

(3) 継続検討グループ

おもに、2019年実施の事業を基に、2020年度実施を検討している事業です。取りやめになる事業もあります。

- ・キックオフイベント・・・登録記念事業の開始を周知するためのセレモニー。1年前の2019年12月かおよそ半年前の2020年5月実施のどちらかで検討中。
- ・ツーリズム EXPO ジャパン・・・日本最大級の旅行博への出展
- ・お城 EXPOへの出展・・・日本全国のお城ファンが集まる展示会への出展
- ・イオンにおけるパネル展・・・イオンライカム、イオン那覇などにおいて開催

6. 終わりに

目的のところでも述べましたが、この登録20周年記念事業が、一過性のイベントにならないようにすることが大事であると考えます。県民が地元の世界遺産を核とした自分の地域に関心と誇りを持ち、魅力と文化的な価値を継承し続ける機運醸成を図る内容とすることも忘れることなく取り組んでいきたい。また、県外や国外の来訪者が遺産のどのようなところに反応するのかをよく観察し、グスク及び関連遺産群ならではの魅力を、より効率よくより深く発信できるようにすることも大事だろう。本県の当事業は準備段階としてまだスタートを切ったばかりです。向こう2年間の事業実施に向けてご意見やご要望がありましたら、遠慮なくお寄せください。よろしく申し上げます。



識名園

(文中の写真はすべて県文化財課所蔵)

世界遺産で青少年を育てる

～地元の宝 再発見～

今帰仁グスクを学ぶ会 山内道美

2018年3月、1本の電話が私の所属する今帰仁城跡ガイド事務局に入りました。富山県南砺市にある某旅行社からでした。今夏8月に地元の小学生が修学旅行で今帰仁城跡に行くので地元ガイドさんに案内してほしいという依頼でした。そしてその日の午後届いたガイド申込書に書かれていた学校名を見て、もしやとネット検索してみると予想が的中しました。

学校名は「南砺市立上平(かみたいら)小学校」。校区に世界遺産「白川郷・五箇山の合掌造り集落」がある小学校でした。世界遺産「今帰仁城跡」を校区にもつ村立兼次(かねし)小学校も単学級の小さな学校ですが、上平小学校はさらに小さい小学校で今回訪れる6年生は11人しかいません。修学旅行は5か月後、それも夏休み中。これは願ってもないチャンス到来。やってみる価値あり。

私たちの「今帰仁グスクを学ぶ会」は今帰仁村公認ガイドで組織するボランティアグループで、2005年から今帰仁城跡を中心に案内ガイドをしています。年間1万2千人近くの個人や団体のお客様を案内していますが、学校関係では2017年度は20校(小学校5、中学校3、高校11、大学1)から案内依頼があり、計1,772人の生徒さんを案内しました。

現在活動しているガイドメンバーは約30名、その多くが村外出身者で、半数以上が65歳以上の熟年世代です。確かに人生経験が豊富で、何よりも自身のガイドスキル向上に情熱を燃やされているガイドさんたちはお客様に喜ばれる魅力的なガイドをされています。でも私にはこれまでずっと気になっていたことがありました。

沖縄に世界遺産「琉球王国のグスクと関連遺産群」が誕生して来年で20年になりますが、その9つの資産を中心に活動している各地域の民間ガイドグループの共通の課題がメンバーの高齢化と若年層の後継者づくりということです。

私たちがガイド活動の中でこれまで蓄積してきたガイディングのノウハウと、その土地の持つ秘められた魅力を地元の中高生にあますところなく伝え、彼ら自身が発信できるようになったとき、彼らは自分の生まれ育ったふるさとに、愛着と誇りを持てるようになるのではないかと考えています。

修学旅行で今帰仁城跡にやってくる県内外の生徒たちを、同年代の地元の子どもたちが案内できたらどんなにすばらしいでしょう。そんな日がいつか来てほしい。そのための手助けに私たち熟年ガイドのおじさんやおばさんが情熱を燃やすことができれば、私たちにとっても今以上の生きがいになるのではないのでしょうか。

まず親ありき、そして本人の気持ち

とりあえず個人的に親しくしているご近所さんで小学生がおられる親御さん(Oさん)に相談しました。

ご夫婦で子供会のお世話をされているOさんの同意と協力を取り付け、いよいよ6年生の本人たち(実は男女の双子)に私の構想を打ち明けました。

「今度の夏休みにここの小学生たちが今帰仁城跡にやってきます。冬はこんなに雪が積もります」

冬の世界遺産「五箇山」の美しい写真を数枚タブレットで見せました。次に学校のある場所を地図で示し、「山に囲まれた君たちの学校よりももっと児童数が少ない学校です」と、学校の写真も見せました。反応ありとみて、「実はこの学校から今帰仁村の地元ガイドに城跡を案内してほしいと依頼がありました。そこで考えたのですが、どうせだったら大人のガイドでなく同じ校区に世界遺産を持つ地元の6年生のあなたたちが案内してあげたら相手もきっと喜ぶというか驚くと思うんだけど、ふたりでやってみない？」

ちょっと脈はありそうでしたが、二人とも表情が硬く返事がない。

「もちろん初めての経験だからうまくできるかどうか不安だと思うけれど、私がちゃんとガイドができるようにしてあげるから心配いらないよ」

「・・・」

するとお父さんのひとこと。

「もし友達になれたらいつか家族でここに遊びに行けるかもしれないね」(ナイス援護射撃)

「いま返事しなくていいんだよ。お家でみんなでよく相談して、やると決まったら来週からスタートしよう。まだ5か月近くあるけど準備は早く始めた方がいいからね」

そして1週間後、二人はすっかり吹っ切れた顔をして筆記用具をもって我が家へやって来ました。座学第1講のスタートです。

基礎編 (座学)

- ① 今帰仁城跡のことで、あなたがすでに知っていることは何ですか？
- ② 今帰仁城跡のことで、あなたが人に伝えられることは何ですか？
- ③ 今帰仁村監修の「今帰仁城跡解説DVD(約20分)」を見てもらった後、
「視聴する前から知っていたことは何ですか？それは誰から教えてもらいましたか？もし全部忘れて何もなくても大丈夫です。いま見た中で印象に残ったことや気になったことを自分の持ち駒(ハート)にすればいいのです」
- ④ 宿題プリント【テキスト①】を渡し次回までに記入してくるよう指示。二人に1冊ずつ今帰仁村監修のガイドブック「今帰仁城跡」を渡し、「答えはすべてこの中に書いてあるので、読んで調べて答えを見つけてください。」
- ⑤ 調べ学習が終わったら次はその正解を覚えよう。この問答集がカンニングペーパーになります【テキスト②】
- ⑥ 問答集(カンニングペーパー)を増やそう【テキスト③】

応用編 (座学)

- ⑦ この説明ポイントでは何を説明すればいいかな？【テキスト④】
- ⑧ 自分が説明できるポイントを増やそう
- ⑨ 覚えて机上シミュレーション

<ちょっと一休み>

経験のない子どもたちが初めてのことをやろうとするとき、もともと初めから興味や意欲を持っている子どもは別として、ふつうは「ほかの人ではなくどうして私なの？」「それをやったらどんないいことがあるの？」と思うでしょう。学校と違って「テストのため」は通用しません。やっていくうちに「なんだかおもしろそう」と思ってくれたらどんどん勢いがつきます。でもやらされている感があるうちはおもしろいとは思えません。いくらやってもうまくならないときピンチがやってきます。でも続けていけば必ず上達していることが実感でき、周りの人々の目も変わりたくさんの人々が自分たちを応援してくれていることを知ります。そしてそれが次のパワーになります。これは子どもに限ったことでなく大人のガイドさんたちにも言えることです。せっかくガイド養成講座を受講されたのに、座学を終え実習段階になって脱落していかれる方が少なくないのが残念です

実践編Ⅰ (初級編)

- ⑩ 実際に現地を歩いて説明ポイントを確認しよう
「はじめはカンニングペーパーを見ながら説明してもいいよ」
- ⑪ 「このポイントではどちらが説明する？」
何回かやって慣れたら二人が交代してやってみよう
- ⑫ ひとりが簡潔に短く説明する(先発) もうひとりがそれを受けて同じポイントで補足する。何回かやって慣れたら二人が交代してやってみよう

実践編Ⅱ (リハーサル)

- ⑬ 「私を何も知らないお客さんだと思ってやってみよう」
- ⑭ 家族や身近な人にお客さんになってもらおう
- ⑮ 友達や担任の先生にお客さんになってもらおう
- ⑯ 声の大きさ、話すスピード、堂々とできているか(感想を聞き次回に生かす)

実践編Ⅲ (上級編)

- ⑰ 質問された時に困らない方法
- ⑱ 一方的にしゃべるのではなくお客さんに問いかけてみよう
- ⑲ お客さんに喜んでもらえる、楽しんでもらえるための工夫
- ⑳ これであなたは一人前

さて、小学生二人のボランティアガイド初挑戦の奮闘ぶりは、新聞記事のとおりです。ふたりが起こした波紋がどんどん広がって新聞記事やテレビで取り上げられると学校や地域で話題になり、友達や先生から「すごいね！」と言ってもらえる。もちろん家族や近所の人からも。

夏休みが終わり新学期が始まると、担任の先生が仕掛け人となって学校の中で新しい展開が始まりました。

12月2日 兼次小学校学習発表会の6年生のテーマは「今帰仁グスク」。6年生全員がグループに分かれて全校児童と保護者の前で堂々と発表しました。

12月11日に兼次小学校6年生全員で姉妹都市の酒田市からやって来た6年生を城跡案内しました。

小学生から始まったムーブメントは地元の中学校や高校に広がっていきました。

1月10日 今帰仁中学校2年生と北山高校2年生が今帰仁城跡で城跡ガイドの説明を聞き、VRの体感授業を受けました。その様子はテレビで放映されました。

2月2日 城跡ガイドの特訓を受けた今帰仁中学校ジュニアリーダー7人が3つのグループに分かれて、国頭郡(金武町・宜野座村・名護市)のジュニアリーダーたちを城跡に招き案内しました。



まとめにかえて

2010年、今帰仁村をはじめ沖縄県北部地域在住の小学5年生～高校3年生を中心に現代版組踊「北山の風」が結成されました。来年で10周年を迎えるこの活動を支えてきたのはメンバーの子どもたちの父母の会である「北山ていだの会」です。週1回のお稽古ではダンスや演技をOBやOGの経験者が後輩たちに指導するほか、琉球の歴史や「北山の風」のテーマでもある山北の歴史を城跡ガイドから学びます。そうして身に着けた成果を発表する舞台が世界遺産「今帰仁城跡」。また地域のイベントだけでなく村外や県外にも出かけています。学校や地域とはまた違う新たな人間関係の中で、舞台を成功させるという共通の目標を目指して技を磨き、子どもたちは自信をつけていきます。



Jr. ガイド 大城晴翔・日花莉

沖縄県に世界遺産「琉球王国のグスクと関連遺産群」が誕生した同じ2000年に産声を上げたうるま市の中高生からなる現代版組踊「肝高の阿麻和利」は同じく世界遺産「勝連城跡」を舞台に演じられ、それを皮切りに現在では沖縄県内県外に10を超えるチームが結成され、郷土の先人たちをテーマに上演、先輩から後輩へと活動は受け継がれています。

よく郷土に誇りを持ってと言われますが、その地に歴史上の偉人がいたとか、有名な観光地があるとか、それは自分が頑張ったこととは直接関係がありません。どんな形であれ自分自身に関わることが大切で、自分が夢中になれるもの、それが見つけられる地域であってほしいと思います。

テキスト① 世界遺産「今帰仁グスク」クイズ

第1問 今帰仁グスクがつけられたのはいまからおよそ何年前ですか？()

第2問 そのころの沖縄は「()時代」といわれ、争いが多く、各地に城(グスク)がつけられました。

第3問 1416年に北山(山北)は滅ぼされ、中山は琉球王国を建国します(三山統一)。首里王府は1422年に今帰仁グスクに監守を派遣し城を守らせたのでその後の時代を「()時代」といいます。

第4問 2000年12月、ユネスコの世界遺産一覧に登録された沖縄の世界文化遺産の正式な名前は何ですか？()

テキスト② 今帰仁グスク(北山城)の歴史一口メモ

琉球に統一王国が成立する前には、北山(ほくざん)、中山(ちゅうざん)、南山(なんざん)と呼ぶ三つの小国家が並立し、それぞれが北山・中山・南山王を名乗り対抗した。中国はこれを指して「三山」と呼び、歴史上この時代を三山時代という。

13世紀に造られた今帰仁(なきじん)グスクを拠点に沖縄本島北部地域を支配したのが「北山(山北ともいう)」であり、最後の城主・攀安知(はんあんち)は腹心の大将・本部平原(もとぶてーはら)とともに、武力の強化・拡充に努め、周辺の按司達から大変恐れられた存在であった。

攀安知は最大のライバルの沖縄本島中部を拠点とする中山(ちゅうざん)侵攻を計画していたが、攀安知を恐れる按司たちが、先んじて北山攻略を行うことを中山王に進言。中山王は息子・尚巴志(しょうはし)に北山攻略を命じた。尚巴志は、1416年に約3千人からなる連合軍を結集し今帰仁グスクを攻めた。当時の沖縄の人口は約8万人程度だったことから、連合軍の規模がいかに大きなものだったか想像できよう。

しかし、天然の要塞である今帰仁グスクは難攻不落、連合軍の昼夜・三日間に渡る攻撃を撃退した。正攻法では攻略が難しいとみた尚巴志は、密使を送り攀安知の腹心・本部平原を説得。北山軍を城外の攻防におびき出すことに成功、北山全軍が城外で戦っている間に城内に侵入した。今帰仁グスクを攻落された北山軍は防御の全てを失い敗北したという。

北山王・攀安知は、守護神としていた霊石を斬りつけ(宝剣千代金丸)自害したという。その後今帰仁グスクには、中山王の親族から北山監守が派遣され、薩摩・島津氏の琉球侵攻(17世紀初め頃)まで北山監守の居城として使用された。(廃城 1665年)

2000年12月、「琉球王国のグスクおよび関連遺産群」としてユネスコ(国連)の世界文化遺産として世界遺産一覧に登録された。

テキスト③ 今帰仁城跡が世界遺産になれたわけは？

Q1 今帰仁城跡って何がそんなにすごいのか？

Q4 「日本の城」との一番大きな違いは何か？

Q2 今帰仁城はいつだれがつくったのか？

Q5 「地球の歴史」もわかる今帰仁城跡の謎って？

Q3 他のグスクとの大きな違いは何か？

答(解説)

Q1 一番の魅力は「万里の長城」を思わせるスケールの大きな城壁(石垣)の美しさです。でもそれだけでは「世界遺産」(世界が認めた次の時代へ残すべき人類共通の宝物)にはなっていません。グスク(城)が今も“祈りの場”であり続ける、そんな例は日本にも外国にもありません。今帰仁城跡は聖地です。

Q2 1200年代の終わりごろに80年ぐらいかけて造られたといわれていますが、当時の記録がなく造った人の名前もわかりません。当時は「三山時代」といって戦国時代でした。北部を支配していた北山王の居城で約150年続き1416年北山滅亡。2度目の落城は1609年の薩摩侵攻です。

Q3 統一されて琉球王国の時代になり、世の中が平和になると城主たちは首里(現在の那覇)に集められてそこで暮らすようになりました。ただ今帰仁グスクだけは、遠く離れた北部地域で反乱が起これないように監視するために首里城の出城として残されました。今帰仁城主のことを「監守」(かんしゅ)と呼ぶのはそのためです。

Q4 日本の城は鉄砲の攻撃に備えて造られています。琉球の城が造られたのは日本よりも何百年も早く、まだ鉄砲が登場する前の時代でした。だから城壁の上には建物を造らず、天守閣もありません。武器の発達によって城の姿や形が違ってきます。

Q5 発掘調査によって当時の人の暮らしや琉球の歴史がわかってきました。アンモナイトの化石が見つかったことにより2億数3千万年前に形成されたとても固い石灰岩で城壁が造られていることがわかりました。

テキスト④ どこで何を説明したらいいか？

①**模型(もけい)** ・山の上につくられているから攻められにくい ・当時のものは石垣だけが残っている(約1500年) ・10の郭(くるわ)からできている

②**世界遺産説明板(写真と地図を使って)** ・2000年に国連ユネスコが世界遺産に認定 ・9か所のうち5つが城跡

・グスクは城のこと、祈りをする神聖な場所

③**平郎門** ・石の積み方は「野面積み」

・石垣がカーブしている理由 ・日本の城と共通点がない

④**旧道(きゅうどう)** ・わざと歩きにくくつくった理由 ・七五三の階段は当時なかった

⑤**大隅(うーしみ)** ・兵士たちが馬に乗って訓練した

⑥**大庭(うーみや)** ・乙樽碑の前で乙樽の話と琉歌の話

⑦**御内原(うーちばる)** ・いちばん景色のいい場所に女官たちの屋敷が ・サンゴ礁の話

⑧**テンチジアマチジ(うたき=御嶽)** ・石を拝む

沖縄の文化→自然崇拜

⑨**主郭(しゅかく)** ・北山王の建物跡(1416年に焼失) ・監守の建物跡(1609年に焼失) ・火の神(ひぬかん)

ウチカビの話→先祖崇拜

⑩**志慶真門郭(しじまじょうかく)** ⑪**裏門と家臣の建物跡**

再提出された奄美・琉球の世界自然遺産登録推薦書

－ IUCN の指摘にどう応えたのか－

花井正光（琉球弧世界遺産フォーラム代表）

登録推薦書の取り下げをもたらした IUCN の評価と勧告

日本政府による提出済み世界自然遺産登録推薦書の取り下げと、北部訓練場返還地のやんばる国立公園への編入などについては、去年 8 月発行した本ニュースレター第 11 号で紹介しました。取り下げられた自然遺産登録候補「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」（以下、「奄美・琉球」と記す）の推薦書は、2017 年、規定に従って 2 月 1 日に合わせて提出されたものでした。推薦書提出を受け、諮問機関の IUCN は専門家によるデスクレビューと現地調査による所定の評価を経て、世界遺産委員会に評価レポートを提出しました。その評価結果が登録延期の勧告でした。

この IUCN の勧告は、是正されるべきとする以下の点を踏まえたものでした。

- ① 推薦資産の価値づけを 10 番目の評価基準に焦点を当て、構成要素の選定や連続性、種の長期的保護の可能性等について再考すること。
- ② 沖縄島の北部訓練場返還地を必要に応じ推薦地に統合する等必要な調整を行うこと。
- ③ 土地所有者や利用者の管理への参画と私有地の取得等を進めること。
- ④ 奄美大島ノネコ管理計画の採択及び実施予定等、侵略的外来種の駆除管理の取り組みを評価し、推薦地の生物多様性に負の影響を与える他のすべての侵略的外来種を対象に拡大すること。
- ⑤ 主要な観光地域において、適切な観光管理メカニズムや観光施設等、開発及び訪問者管理計画の実施を追求すること。
- ⑥ 絶滅危惧種の状態・動向、及び人為的影響及び気候変動による影響に焦点を当てた、総合的モニタリングシステムを完成し採択すること。

提出された世界遺産一覧記載推薦書に見る IUCN 勧告事項への対応策

IUCN による上記の指摘内容については、推薦書作成に関わって設置された科学委員会やワーキンググループの会議でも議論されることが多かったテーマですが、中には保護対策の強化・充実を図る方針が関係機関によって確認され取り組みが開始されているケースも含まれています。また、IUCN の指摘に拘わらず、自然遺産登録候補地に相応



図1 生物多様性に富み、島じまで分化した固有種が多くみられる一方、絶滅危惧種も多く分布する奄美・琉球の自然の特徴を描き出したイメージ図。
提供：環境省那覇自然環境事務所

しい資産の保護管理や利用のあり方に向けた組織体制が始動しているケースもあります。それらも含め、IUCN の指摘に応える対策を講じて推薦書や付属書が作成され、去る 2 月 1 日に改めて世界遺産委員会に提出されました。

余談ですが、去年 11 月日本政府は 2020 年の世界遺産委員会で登録審査される我が国の登録候補の推薦を自然遺産「奄美・琉球」と決めました。この決定があつてこそ、この度の推薦書提出ができました。というのも、2020 年から世界遺産委員会による登録審査は 1 国につき 1 件に限ることが決まっていますから、去年 7 月文化審議会がこの年の登録推薦を目指す文化遺産候補を「北海道・北東北の縄文遺跡群」に決めたことから、「奄

美・琉球」にとって競合相手が出現したことになり、いずれの推薦書を提出するか調整する必要が出来ていました。事によったら、自然遺産候補が推薦対象から外れていたかも知れません。

それはともかく、再提出された推薦書等に盛り込まれた対応策の主な内容を以下概述します。詳しくは、インターネットで誰でも取得できる推薦書等でみる事ができます^{注1}。

まずは、上記勧告の①への対応措置から。先の推薦書では、9番目と10番目の評価基準により顕著な普遍的価値の証明を主張しましたが、勧告に沿って10番のみに改めました。琉球列島は、国土の1%にとおく及ばない面積ながら生物多様性に富み、固有種が多く、島嶼環境とあって絶滅が危惧される動植物が目立って多い地域として世界的に知られています(図1)。ただ、絶滅危惧種が多く生息する、他にかけがえの無い地域であることが価値評価の対象となることから、国際的に絶滅の回避責任を負うことになり、住民はもとより関係者ごぞって当事者意識を高め保全対策に参画する地域社会の醸成が不可避です。

次に①と②に対応する措置として、北部訓練場返還地をやんばる国立公園に編入し、推薦区域が大きく拡大されました。また、生態学的に保全効果に乏しい隔離された小規模な環境が推薦区域から除外され、これらの措置により、推薦区域の生態学的な持続可能性が改善されました。この区域の変更は図2に分かり易く示されています。また、推薦区域に隣接する残る米軍訓練場を含め外来種対策などで日米の協力体制が継続され統合的管理が図られるよう調整しているとしています。

③の指摘については、集落との意見交換やシンポジウムの開催、地域の取り組みへの補助金交付などを行い、観光事業者や林業者、地域と連携した巡視、外来生物の駆除など、推薦地の管理に多様な主体の参画を得るための方策検討を進めるほか、奄美大島では私有地を買い上げ保護管理下に移す措置を講じているとしています。

④の奄美大島でのノネコ対策は管理計画を策定し関係機関がそれぞれ対策を実施しており、他の地域の侵略的外来種の侵入防止策についてはモニタリング調査の実施に加え、関係条例の策定が進行しているとしています。

⑤はいわゆる持続可能な観光の具現化を求める勧告であると考えられるが、この点については推薦区域が所在するいずれの地域においてもここ数年で、ツアーガイドの登録・認証制度、地域住民の合意や地元行政機関の参画を得た観光利用ルールの方策と運用、エコツーリズム推進体制の構築などの取り組みが見られる一方、ツアー客にも配慮を求めるより総合的な観光管理システムを目指した関係係によるマスタープランの方策と運用も始動しているなか、資産の順応的管理に不可欠なモニタリング計画を策定に取り組むとしています。

以上の対応策を掲げて、今秋に予定される諮問機関、IUCNの再度の現地調査とその後の技術評価レポートと世界遺産委員会の登録審議に臨むことになります。さて、如何相成りますことか、成り行きを見守ってまいりましょう。

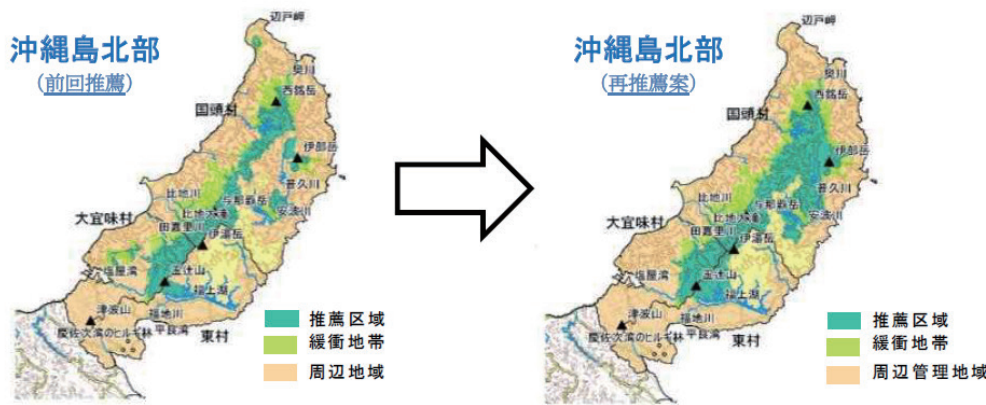


図2 沖縄島北部の新たな推薦区域(右)は返還された北部訓練場の大部分を追加し、隔離された小規模な飛び地を削除するなどの措置により改善が図られた。図は環境省による報道発表資料から引用。

注1 これらの資料は、推薦書等の提出をMLで報道発表した際の記事に添付されており、次のURLからダウンロードできる。
世界遺産一覧表記載推薦書：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/110739.pdf>
同付属資料：<https://www.env.go.jp/press/files/jp/110740.pdf>

足下の資源が自然資本

西江 重信（環境カウンセラー）

沖縄は“苦味の食文化”

沖縄の人は実に上手に苦味の素材を料理する。料理するというより単に使っているという方が的を射ているかも知れません。野菜を栽培する文化がなかった時代、しかも、調味料も少なかった昔、土手や畦道に年中茂っているフウチバア（ヨモギ）やンジャナバア（ホソバワダン）等を摘んできて、乏しい主食材と炊き込んでみると、野草の苦味が緩和され、しかも、味気の無い主食材に微妙な味が付いてうまみが出る。庶民の経験の積み重ねが「苦さの食文化」を定着させ、割と癖がない苦味の周辺領域の野草を食材としたのではないかと考えられます。

味の五味と沖縄の“野草”

味の文化は、国や地域により特徴があり、『中医学』では、薬膳としての食物の性質を、^{さん}酸・^く苦・^{かん}甘・^{しん}辛・^{かん}鹹の五味に分類しているが、沖縄の伝統食材野草には、これらの要素全てが含まれています。

“野の菜”と名付けました

現在、私たちが食している野菜を栽培菜、雑草を野草と勝手に名付けています。そして、下記の野草群が本来の野菜であろうと考えることにしました。とはいえ、今更これらが本来の野菜ですとは言えないから、“野の菜”と名づけることにしました。これらは、雑炊の具、天ぷら、和え物、スープの具として、さらに、コンビーフやツナと炒めるとおいしい一品になり、太陽のエネルギーと土の精が詰まった独特な大人の味になります。

苦味の“野の菜”七草。馴染みのあるンジャナ(ホソバワダン)・フウチバア(ニシヨモギ)・チョウミィグサ(ボタンホウフウ)の写真は省きました。



ハマデエクニ
(ハマダイコン)



ハマグンボウ
(ハマボウフウ)



マアナ
(ハマカブラ)



クサジナ
(ショウロクサギ)

得難い観光資源

来訪者や修学旅行、インバウンド等が望むことは、伝統的な暮らしを体験することです。土手や畦道で野の菜を摘み、地域の人々と料理し食しながら交流をする。“思い出深い旅”になります。野の菜の栽培は、民宿の菜園、リゾートホテルは土手や畦道を整備し植える。さらには、地域の高齢者がアタイ(家庭菜園)で栽培して旅人をウトウイムチ(おもてなし)する。登録をめざす「世界自然遺産」の隠れた助っ人になります。

トピックス

“七草じゅうしい”と“野の菜膳”を作ってみる

「おいしくなければ薬膳ではない。おいしくなくてもまずくはない。」が薬膳の基本です。



新春の文化としての七草じゅうしい



野の菜薬膳



野の菜料理体験

次号は、主な野の菜の特性と、苦味の周辺領域の“野の菜”を紹介します。